

生涯、寄り添いたい

陸前高田市に通い続ける元保健師

2011年3月11日、東日本をマグニチュード9.0の巨大地震が襲った。死者、行方不明者は計1万8千人以上に上る。大津波は沿岸部をのみ込み、東京電力福島第1原発事故は多くの避難者を出した。岩手県や宮城県などの被災地に寄り添って支援を続け、被災者と共に歩む本県関係者の目を通じて、「被災地の今」を伝える。

東日本大震災の津波で、岩手県陸前高田市の中心部は大きな打撃を受けた。現在はほぼ更地となり、視界を遮るものはほとんどない。行き交うのは車だけ。がれき処理の重機が、至る所で「ご音」を響かせる。

「『復興＝生活再建』という意味であれば、『復興』はまだまだ。目に見えなくても、昨日より今日、今日より明日と、ゆっくり



「あの日」から2年

1

岩手県から派遣され、2007年4月から10年3月まで市の保健師。長女は県立高田病院で生まれ、長男と次男もこの地で授かった。そんな「第二の古里」を津波が襲い、同僚の保健師9人のうち6人が命を奪われた。震災発生の約1年前の同年4月から看護大に勤務。勤務が1年遅れていれば、自分も家族も

市民の生活再建が使命

津波にのまれたかもしれない。それだけに、「救われた命」との思いが強い。

「自分の人生は、陸前高田を助けるためにあるのかもしれない。公衆衛生の分野で支援することが自分の使命」。震災直後、

佐々木さんは看護大に頼み込み、秋田赤十字病院の救護班に同行。震災5日目、同市入りした。「遅いぞ」。元上司の菅野道弘さん(58)は「現・市会計管理兼会計課長」に開口一番、

こう声を掛けられたという。佐々木さんは自らを同市の保健、医療、福祉をつなぐ「ハブ」と表現する。同市や看護大での勤務経験を生かし、混乱する現

津波にのまれたかもしれない。それだけに、「救われた命」との思いが強い。「自分の人生は、陸前高田を助けるためにあるのかもしれない。公衆衛生の分野で支援することが自分の使命」。震災直後、佐々木さんは看護大に頼み込み、秋田赤十字病院の救護班に同行。震災5日目、同市入りした。「遅いぞ」。元上司の菅野道弘さん(58)は「現・市会計管理兼会計課長」に開口一番、こう声を掛けられたという。佐々木さんは自らを同市の保健、医療、福祉をつなぐ「ハブ」と表現する。同市や看護大での勤務経験を生かし、混乱する現

「保健医療福祉未来図会議」陸前高田市内外の関係者が集まり、保健医療福祉の各分野をつなぎ、効率的で効果的なケアを目指すほか、中長期的な視点で復興に向けたデザイン(計画・未来図)を議論する場。震災発

場の中でそれぞれの情報を集めて整理し、伝える役割を担ってきた。震災5日目、同市入りした。「遅いぞ」。元上司の菅野道弘さん(58)は「現・市会計管理兼会計課長」に開口一番、こう声を掛けられたという。佐々木さんは自らを同市の保健、医療、福祉をつなぐ「ハブ」と表現する。同市や看護大での勤務経験を生かし、混乱する現

元同僚の看護師松木祐子さんは「津波で多くの市職員が犠牲になった中、包括的に対応できるコーディネーターが必要だった。自分の担当業務に没頭できたのは、佐々木さんが調整役を果たしてくれたから」と振り返った。

「課題に対して共通の理解を持ってケアに当たり、復興へのデザインを描く。それが会議の目的。住民が不安になるのは先行きが見えないから。未来への設計図を示すことができれば、それが『生きる力』になる。行動の中にこそ復興がある」。会議の名称の「未来図」の3文字には、そんな思いが込められている。

今年3日、佐々木さんと再会した菅野さんはこう話した。「佐々木さんは外部の人間だけでなく、身内でもあり同僚。職員が目の前の仕事に忙殺される中、この仕事は彼にしかできない」。佐々木さんへの信頼と感謝がにじみだ。(喜田良直)



岩手県陸前高田市の元上司菅野さん(中)、看護師松木さんと、震災当時を振り返る佐々木さん(左) 3日、同市の仮設庁舎

生16日目に「包括ケア会議」として発足。当初は2週間に1回ペースで開催していたが、現在は「未来図会議」と名称を変え、月1回、仮設の市役所で開催している。

震災発生から間もない11年3月26日、佐々木さんが中心となり3分野の関係者が一堂に会する「包括ケア会議」を立ち上げた。昨年4月に「市保健医療福祉未来図会議」と名前を変え、現在も活動を続ける。

「課題に対して共通の理解を持ってケアに当たり、復興へのデザインを描く。それが会議の目的。住民が不安になるのは先行きが見えないから。未来への設計図を示すことができれば、それが『生きる力』になる。行動の中にこそ復興がある」。会議の名称の「未来図」の3文字には、そんな思いが込められている。

今年3日、佐々木さんと再会した菅野さんはこう話した。「佐々木さんは外部の人間だけでなく、身内でもあり同僚。職員が目の前の仕事に忙殺される中、この仕事は彼にしかできない」。佐々木さんへの信頼と感謝がにじみだ。(喜田良直)

今年3日、佐々木さんと再会した菅野さんはこう話した。「佐々木さんは外部の人間だけでなく、身内でもあり同僚。職員が目の前の仕事に忙殺される中、この仕事は彼にしかできない」。佐々木さんへの信頼と感謝がにじみだ。(喜田良直)